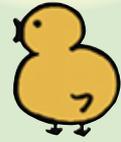


あたらしくはいった本 (平成30年6月 貸出開始資料から)

- 小説 元禄お犬姫(諸田玲子/著) 炎の来歴(小手鞠るい/著) ののはな通信(三浦しをん/著) 未来(湊かなえ/著) 婚活食堂(山口恵以子/著) ウォーターゲーム(吉田修一/著) 鏡じかけの夢(秋吉理香子/著) バットランド(山田正紀/著) 福家警部補の考察(大倉崇裕/著) ASK(新堂冬樹/著) 白墨人形(C. J. チューダー/著)
- 随筆・詩などの文学 詩のきらめき(池澤夏樹/著) とりあえずウミガメのスープを仕込もう。(宮下奈都/著) やっぱり食へに行こう。(原田マハ/著) 納得して死ぬという人間の務めについて(曾野綾子/著) 役に立たない人生相談2(佐藤愛子/著) 水中翼船炎上中(穂村弘/著)
- その他の本 日本の星名事典(北尾浩一/著) 葉草のちから(新田理恵/著) 冷凍フルーツのひんやりスイーツ(あまこようこ/著) 自分で直せば断然お得!身のまわりの修理の教科書(西沢正和/監修) 虫といっしょに家庭菜園(小川幸夫/著) 47都道府県・国宝/重要文化財百科(森本和男/著) 誰にもわかるハイテガー(筒井康隆/著)



みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

平成30年	日	月	火	水	木	金	土
8	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

発掘調査の衝撃

大宰府史跡発掘50年にあたって

大宰府史跡の発掘調査が始まったのは昭和43(1968)年のことですが、今年はその50年という節目にあたります。

同41年、文化財保護委員会(現文化庁)は、福岡県教育委員会からの大宰府史跡の指定拡張申請を承けて大宰府史跡の大幅な追加指定計画を発表します。それは大宰府政庁およびその後背地を中心に、約120ヘクタールを指定域とするというものでした。これ以降、大宰府は史跡の保存か、開発かをめぐって揺れ動くこととなります。このことは史跡の所在する地域住民の生活をも含めて、史跡のありかたを根本的に問うものとして大宰府を全国的に注目させることとなったのです。最終的には、昭和45年9月21日、特別史跡「大宰府跡」の追加指定、および「大宰府学校院跡」、「観世音寺境内及び子院跡」の新たな史跡指定が告示されます。計画発表から数えて、実に4年後のことでした。



の基礎資料を得ることを、当面の課題としました。実質的な調査は11月に始まります。第1次調査は、大宰府政庁南門跡・中門跡で実施され、遺構の残存状況を把握すること、また今後の調査の基準とするため、南門跡・中門跡と正殿跡の遺構を通して、その中軸線を確認することを目的としました。その結果は、「大宰府政庁は天智朝に創建されて以降そのまま存続し、天慶4(941)年藤原純友の乱による焼き討ちにあつて焼失、その後再建されることはなかった」というそれまでの通説を大きく覆す衝撃的なものでした。発掘調査では、政庁域では3度の建て替えの跡が確認され、また最後に建て替えられたのは、純友による焼き討ちの後であることも分かったからです。その後の調査もふまえて、現在では大宰府政庁のうつりかわりは、次のように考えられています。

第1期 7世紀後半(天智朝)〜8世紀初頭

第2期 8世紀初頭〜10世紀前半
(天慶4(941)年)

第3期 10世紀後半〜12世紀前半

さて、発掘調査が開始された昭和43年は、開発か保存かという議論の渦中にありましたから、その調査は史跡保存のために遺構の状況を具体的に示し、その価値を明示すること、および今後遺跡を保存、整備、活用するため

大宰府市公文書館 重松 敏彦